



地域住民への感謝を伝えたい

菊陽北小学校では、地域の皆さんの協力で、1年生「見守りの方への感謝」2年生「牛を育てる仕事」3年生「にんじんを育てる農家」4年生「地域で働く人たち(消防署・役場など)」5年生「米づくりから学ぶ」6年生「地域へ感謝(看板づくり)」などの学習を行っています。

今回は5年生の取り組みを紹介します。田植えから始まり、草取り、稲刈り、稲わらを使ったしめ縄作りに取り組みました。児童は収穫した米を地域の皆さんに配り、感謝の気持ちを伝えました。



感謝の気持ちを込めて協力いただいた地域住民に米を贈呈する児童

打ちつける雨に屈まるコスモスの花びらただに揺れてをりたり
古き友今年もミカンを持ちてきぬコンテナ二杯六十キ口も
夕月が一緒に歩むこちして走って止まって見上げしかの日
読むことは味わうことと心して秘めたる味をしかと知るべし
暖冬に慣れたる日々今朝の冷えイチョウ黄葉が一斉に落つ
手のひらに命尽きたる玉虫のみどりの翅はなおも輝く
ようやくに補聴器使わず聞こえると声弾ませて友知らせ来ぬ
なわとびをしながら駆ける見どもらを空から見ているお月さま

短歌会

大阿蘇はふとこ深し冬ごもり
初霜の白と輝く今朝の庭
夕映えに蔭こそ燃ゆる冬紅葉
つい多め三日続きのおでんかな
ライトアップ浮かぶ天守や冬黄葉
肥かやす両手振り上げ熊手打つ
温く温くの床抜け朝の気合かな
祖父が抱き手を清めやる七五三
滑落の救助及ばぬ冬の山

田島 三間
宮川ユキエ
紫藤 祥子
曾我 育代
曾我トモ子
緒方チエ子
米山るみ子
吉田 幸子
木村 信子

菊陽句会報

きくよう文芸

帰れぬと小声の電話師走入り
綿毛のやう野は眠るかに枯芒
山茶花の薄き花びらいとおいしく
散り敷きて白山茶花のせかい成す
さりげなく吾紅さすもう一輪
立冬の子等晩学の灯を守る
みどり児の肩に乗りたる小春かな
ただ独り生き疲れせり木の葉髪

有久 賢治
梅田 國雄
佐藤せい子
中村 正市
中村トシエ
馬場 礼子
山口 静子
松本 東亜

部落差別をはじめあらゆる差別をなくす
第36回菊陽町人権子ども集会

昨年の12月5日(出)、第36回菊陽町人権子ども集会が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症予防のため例年のように一堂に集まったの開催ではなく、司会の菊陽中学校と各小中学校とを画面(インターネット)を通じてつなぐ開催になりました。

この集会は〇いじめや差別をなくすために、自分や身の回りのおかしさに気づき、行動する〇安心して本当の気持ちが伝えあえる関係をつくる〇いじめや差別を一緒になくしていくなかまをつくることを目的とし、子どもたちが考え、運営していく集会です。1994(平成6)年に日本でも承認された「子どもの権利条約」の子どもの意見表明の権利や集会の自由の権利などの具体的な行動の姿になります。

事前に収録した動画での発表を4小中学校が行いました。

菊陽北小学校は『大切なもの』～ミナマタ学習から学ぶこと』と題しての発表でした。「学んだことを通して自分たちの暮らしを見つめ直したこと、クラスの絆が深まったこと、真実と向き合い真実を伝えることが私たちにできること」だと伝えました。



北小発表の様子

菊陽中部小学校は、昨年からはじまった人権学習講座「ドリーム・絆」で、「たくさんの友達をつくろう」「いじめや差別をなくそう」という目標に向かって活動していること。また、人権委員会によるアンケートを基に取り組んでいることを発表しました。

菊陽南小学校の人権スローガンは「お互いを知って、おかしいことに気づき、行動しよう」です。その目標のもと「ことばや事実を知って伝えあうこと」を大切に学校全体で取り組みあっている姿について発表しました。

武蔵ヶ丘中学校の2年生は、2001年11月5日早朝、小中学生を含む家族7人が突然入国管理局に連れ去られたこと、そのことに対して行動した先輩たちの姿を「満天星(マンティエンシン)」という話で学習したことを発表しまし



武蔵ヶ丘中発表の様子

た。家族とは? なかまとは? 越えられない壁とは? 何かを考えさせてくれました。

また、生活画、人権ゼッケン・ポスター、水俣学習・平和学習新聞、人権目標の横断幕の動画による展示発表を保育園・武蔵ヶ丘小・武蔵ヶ丘北小・菊陽西小・菊陽中学校が行いました。

集会の最後には①いじめや差別を自分のこととして考え自分の行動をふり返る②自分の思いを伝え、自分から差別をなくす行動をする③お互いのことを知り合い、いじめや差別を許さないなかまをつくっていくという三つを集会の宣言として参加者で確認しました。

「町人権子ども集会を終えて」

町人権子ども集会実行委員長 鍋島 優羽
菊陽中学校 3年

私は毎年この集会に参加していますが、回を重ねる度に、より深く人権について考えられよい経験となっています。今年は4校からの発表がありました。その中で水俣病問題についての発表が、菊陽北小学校からありました。私も小・中学校を通して学んできました。そして今もお、差別が残っておりたかっている人たちがいます。水俣病は政府の政策により正しい情報も弁明もないまま人々の苦しみがおさえこまれました。感染や遺伝をするという間違った情報が周りの人からの差別を強めました。私は正しいことを知る、知ろうとする姿勢が大切だと思います。決して他人事ではありません。私たちにできることは同じ過ちが繰り返されないように真実を後世に伝えていくことです。今、コロナ禍で新たな差別も生まれています。これでは水俣病に対する差別の二の舞になりかねません。インターネット上などに飛び交う誤った情報をもとに差別的な目を向けるのではなく、前向きな考えをもちたいです。また、身近なことに視点を変えても同じことが言えます。例えば自分のクラス。クラスの友達はみんな違う個性をもっています。誰一人として同じ人はいません。「みんなちがってみんないい」です。それらの個性をいじめや差別の材料としてみるのではなく、その人の良いところとして見る。こういう身近な一歩が人権における大切な一歩だと思います。



実行委員司会の様子